

第2章

現状と課題

1 文化行政を巡る背景

(1) 策定の経緯

本市においては、平成28年度から平成37年度を計画期間とした「第5次川口市総合計画（以下、「総合計画」という。）」を平成28年4月に策定し、その中で「文化芸術」の分野については、めざす姿Ⅱとして「子どもから大人まで“個々が輝くまち”」を掲げ、施策3「市民が自己実現をめざせる環境づくり」を定めています。

また、本市では、平成28年4月に「川口市教育大綱（以下、「大綱」という。）」を策定し、総合計画の施策と整合性を保持しながら、大綱には、施策7「文化芸術活動の支援」を中心に、施策5「生涯学習活動の支援」及び施策9「歴史的資源の保護と活用」などを掲げています。

この大綱に基づき、川口市教育委員会では、平成28年度から平成32年度を計画期間とした、「川口市教育振興基本計画（以下、「振興計画」という。）」を平成28年4月に策定しています。大綱の施策にあわせ、目指す方向性を示し、具体的な取組を明記しています。この振興計画は、総合計画と同時進行で策定し、市民の意識調査等による意見の反映も、同時に実施したとみなしています。

このようななか、文化芸術分野については、国の「文化芸術振興基本法」が一部改正され、「文化芸術基本法（以下、「基本法」という。）」の名称となり、平成29年6月に公布されました。この基本法では、更なる文化芸術を推進するための基本となる理念が整えられ、基本施策が追加されています。

「基本法」の理念は、誰もが自主性・創造性を十分に発揮できるよう推進していくことにあります。この基本法が改正される前の平成27年5月に文化庁は「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次）（以下、「基本方針」という。）」を閣議決定しており、この基本方針では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて文化プログラムの推進としてわが国が目指す文化芸術を示しています。

一方、本市では平成28年3月に市議会議員の議員提案条例として「川口市文化芸術振興条例（以下、「振興条例」という。）」が制定され、本市独自の理念を掲げています。その背景には、埼玉県においても県域他市における文化芸術の振興を目指す条例が制定されたことが契機となっています。

平成21年7月に「埼玉県文化芸術振興基本条例」が定められた後、平成23年3月には「埼玉県文化芸術振興計画」が策定され、文化芸術全般に対する事業の推進や文化団体への支援の充実等の目標が明確になりました。

これらを受け、本市においても、振興条例の制定後、第6条に示すとおり「総合的かつ計画的に推進するため文化芸術基本計画を策定するもの」とされています。

(2) 国・県の動向

国は、平成13年に「文化芸術振興基本法」を公布し、文化芸術を振興する趣旨の施策を示し、同年発出の「基本方針」ではその指針及び実践的取組を定めています。現在までにその基本方針は3回の改定を重ね、改定ごとに、その実施内容が多種多彩に変容してきています。

前述のとおり、改正された「基本法」の内容は、今まで各分野に対する施策を、「振興する」としていたものが、「推進する」という言葉に代わり、より行政の主体性を広げたほか、各施策の詳細な取組等は追加事項が大幅に増えたものとなっています。

「基本法」に追加された趣旨は、「文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り組みこと」が言及され、更には、「文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること」が掲げられました。

改正の概要としては、基本理念を改めるとともに、文化芸術団体の役割や関係者相互の連携及び協働並びに税制上の措置を規定するものとされています。

更には、芸術、メディア芸術、伝統芸能等の必要な施策として、物品の保存、展示、知識及び技能の継承、芸術祭の開催などに対する支援が追加されました。また、各地域における文化芸術を通じた地域の振興をはかることを推進すること、海外におけるわが国の文化芸術に関する現地の言語による展示公開などが加わり、さらに、芸術家の養成及び確保を図るため、教育訓練等の人材育成への支援などが盛り込まれています。特に、これまでに無い視点として、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、レガシー（遺産）の創出を文化的側面で推進する旨が加わったことが特筆すべき点です。

また、平成31年4月に施行予定の「文化財保護法」の改正により、地域における文化財の観光資源としての利活用を推進しています。

県は、「条例」の公布を機に、前述のとおり「埼玉県文化芸術振興計画」を策定し、平成28年3月に、平成28年度から平成32年度までを計画期間とした次期（2期目）の計画を策定しています。この計画では、「2020年東京（オリンピック・パラリンピック）大会に向けた文化プログラムの実施とレガシーの創出」、「文化芸術をつなぎ役として人と地域の活力を創出」、「未来を切り拓く若い世代を文化芸術の担い手として支援」などの視点を据えて新たな戦略を定めています。

県内各地域に根付いた文化資源を有効に活用ができるよう、また、文化資源の活用が地域づくり、その地域に根ざした人材の育成が独自の文化芸術の発展につながるよう、実践的プログラムを定めています。

(3) 文化芸術をめぐる社会情勢

少子高齢化社会への抵抗

すでに問題視されている少子高齢化社会への危惧は、社会情勢に大きく影響を与える課題ですが、文化芸術分野においても、地域コミュニティの希薄化や文化芸術の担い手の減少などが問題として挙げられています。地域における人と人との結びつきは、文化芸術活動を進展し、また、世代間の交流が若手の人材育成につながるものとして求められています。

IoT^{注1}化・AI^{注2}化時代及びグローバル化時代の到来

情報通信技術や人工知能の急速な進展は、一部の市民に影響を与えるものではなく、近い将来、誰もが等しく、その恩恵を受ける時期が到来することが予想されます。文化芸術分野においても、情報通信技術が活動の情報収集や発信において急激で激しい変化をもたらしています。また、囲碁や将棋などの娯楽文化にすでにAIが参入しているように、他の文化芸術の営みにAIが参入する状況も遠い将来ではないように思われます。

これまでも、わが国の文化は、諸外国に向け発信され、高い評価を受けながら展開されてきています。国内外における文化芸術の相互交流は、わが国の文化資源を再認識できる貴重な機会にもなっています。本市においても、市内における発信だけではなく、国内及び世界に向けた発信によって再評価されることにより、地域産業の振興につながるものとして求められています。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム

2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあります。beyond2020プログラム、東京2020文化オリンピックアードなど、文化庁が定めたプログラムは、大会終了後もレガシーとして、その地域の独自性を保持したまま継続的につながる文化事業として実施することを求められています。

Beyond2020 プログラムとは

2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを『beyond2020プログラム』として認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していきます。



注1 IoT (Internet of Things) あらゆるものがインターネットを通じてつながることによって実現するサービス
注2 AI (Artificial Intelligence) コンピュータによる知的な情報処理システムの設計や実現に関する研究分野

2 市民意識調査から見た現状と課題

本計画を策定するにあたり、文化芸術に関する市民の意識調査については、本市の施策の基になっている総合計画の進行管理や計画をより良いものにするための市民からの評価や意見が反映されている「総合計画のための意識調査」を採用するものです。

文化芸術の分野は、市民生活の利便性や安全性に直接的に関わるものではないため、市民の意識としては重要度が低く出る可能性はあるものの、心を豊かにする市民生活の上では欠かせないものであり、満足度に大きく影響するものであると考えます。そこで、平成29年度「総合計画のための市民意識調査」の文化芸術に関わる部分を抜粋し、分析を行いました。

この調査は、平成29年6月に住民基本台帳を基に無作為抽出した市内在住で18歳以上の男女5,000人を対象に実施したものであり、有効回答数は1,822、有効回答率は36.4%となっています。

(1) 現状

「川口市の良いところ」「川口市の良くないところ」から（20項目のうち3項目まで選択）

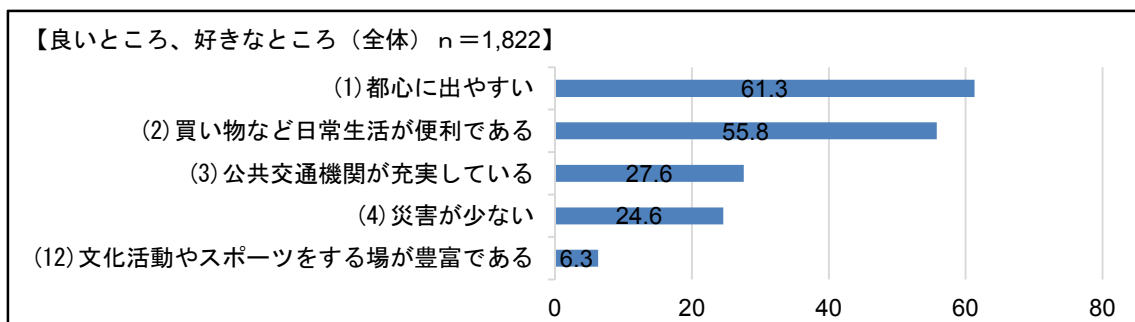
調査結果によると、「川口市の良いところ、好きなところ」の設問において「文化活動やスポーツをする場が豊富である」と回答した方は、全体では6.3%と20項目のうち12番目であり、他の項目と比べ低数値を示しています。（グラフ1）

詳細をみるとその中でも、男女・年齢別では、特に男性の18～29歳の方が13.2%、65～74歳の方が11.8%と女性や他の年齢層と比べ、全体と5ポイント以上の差がある高数値を示しています。また、男女とも30～39歳の年代が低数値を示しています。同年代による文化活動やスポーツの場の活用度が高い可能性があります。（表1）

この質問では地域別の顕著な差はありません。

グラフ1

単位：%



※ () 内数値は%の高い順の順位を示しています

第2章 現状と課題

表1【良いところ、好きなところ（男女・年齢別）】

単位：％

	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
文化活動やスポーツをする場が豊富である（男）	6.3	13.2	1.9	7.5	8.8	4.1	11.8	3.5
文化活動やスポーツをする場が豊富である（女）		3.3	1.6	4.6	5.6	9.6	7.2	6.8

上記に対する質問として、「川口市の良いところ、嫌いなところ」の設問では、「文化活動やスポーツをする場が乏しい」と回答した方は、全体では10.2％と20項目のうち7番目であり、他の項目に比べ高い数値となっています。（グラフ2）

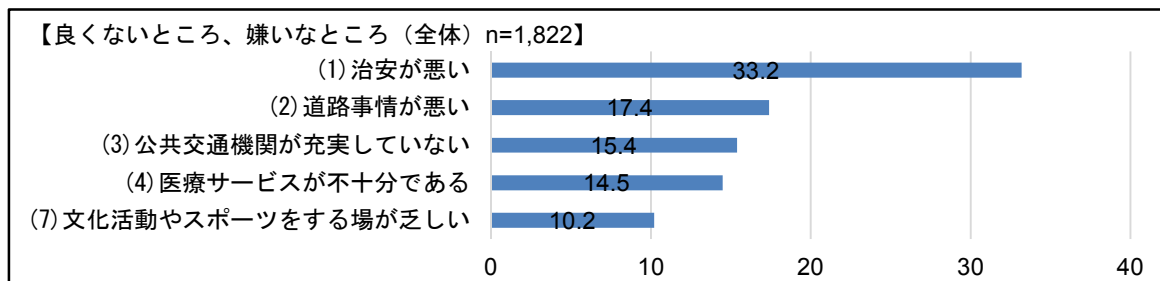
詳細をみると、男女・年齢別では、男性の18～29歳の方が17.1％、65～74歳の方が16.0％と女性や他の年齢層と比べ5ポイント以上の差がある高数値を示しています。これに対して女性は、年齢別では小差となっています。（表2）

次に、勤務地別にみると、埼玉県、東京都以外に勤務している方が10ポイント以上の差のある25.0％と高数値を示しています。（表3）

文化芸術の場としては、全体的に豊富と感じる値は低く、乏しいと感じる値が高く示されています。

グラフ2

単位：％



※（）内数値は％の高い順の順位を示しています

表2【良くないところ、嫌いなところ（男女・年齢別）】

単位：％

	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
文化活動やスポーツをする場が乏しい（男）	10.2	17.1	9.4	9.0	13.2	14.3	16.0	7.0
文化活動やスポーツをする場が乏しい（女）		5.7	8.4	9.1	10.6	8.2	11.4	6.8

表3【良くないところ、嫌いなところ（勤務地別）】

単位：％

	全体	川口市内	埼玉県内	東京都内	埼玉県、東京都以外の県
文化活動やスポーツをする場が乏しい	10.2	9.4	11.3	11.0	25.0

「川口市の好きな場所、もの、行事」から（29項目のうちいくつでも選択）

調査結果によると、「好きな場所、もの、行事」の設問において「川口総合文化センター・リリア」と回答した方は、全体では29項目中4番目で、28.0%と他の文化芸術・社会教育施設の中で中央図書館に次ぐ高数値を示しています。一方、「アートギャラリー・アトリア」と回答した方は、全体では23番目で、3.5%と他の文化芸術・社会教育施設に比べて、特に低数値を示しています。（グラフ3）

詳細を見ると、「川口総合文化センター・リリア」と回答した方のうち、男女・年齢別では、男性の75歳以上の方が36.0%、女性の50歳以上の方が各々の年齢層で高数値であり下表のとおりです。男女ともに年齢が高くなるにつれ数値が高くなる傾向があります。特に、65歳以上の方からの利活用度が高いことが予想されます。「川口総合文化センターリリア」、「アートギャラリー・アトリア」とともに女性が好きな場所としての選択が高くなっています。（表4）

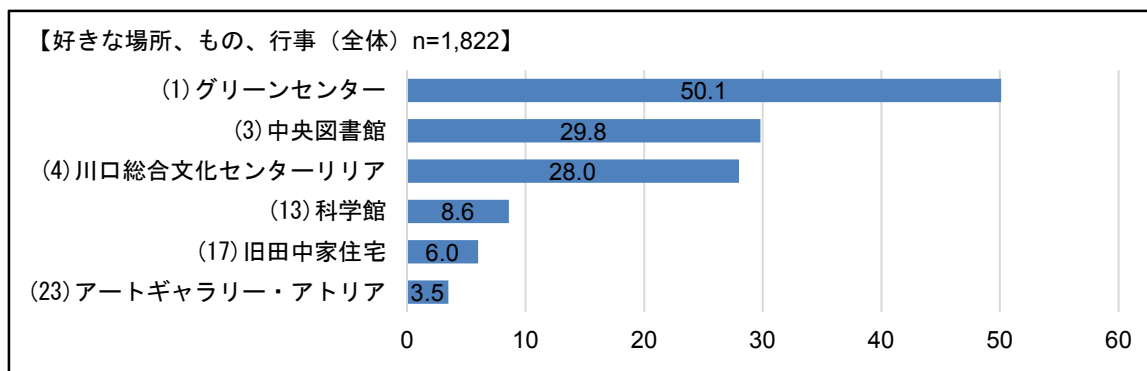
次に、勤務地別にみると、「川口総合文化センター・リリア」は市内が低いのに比べ、市外の値が高く、交通の利便性が高い施設であることや、規模が大きい点などが利点となっていますと予測されます。埼玉県、東京都以外の県が33.3%と高数値を示しています。一方、「アートギャラリー・アトリア」は、特に埼玉県、東京都以外に勤務している方の認知度が低いことが見受けられます。（表5）

次に、地域別にみると、「川口総合文化センター・リリア」は横曽根地域37.2%、南平地域33.3%、新郷地域の方が33.3%、「アートギャラリー・アトリア」は中央地域5.8%、横曽根地域6.3%とともに高数値を示し、施設から離れている地域の方の数値が低いことが見受けられます。（表6）

このことから、川口総合文化センター・リリアは男女ともに年齢が上がるほど好まれる傾向があり、特に、女性はこの傾向が顕著に現れています。また、川口総合文化センター・リリア、アートギャラリー・アトリアともに隣接している地域から好まれている傾向が見受けられます。

グラフ3

単位：%



※ () 内数値は%の高い順の順位を示しています

第2章 現状と課題

表4【好きな場所、もの、行事（男女・年齢別）】

単位：％

	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
中央図書館（男）	29.8	30.3	25.5	30.8	31.6	34.7	20.2	20.9
中央図書館（女）		36.9	29.8	34.7	32.2	34.2	27.5	24.6
川口総合文化センターリリア（男）	28.0	14.5	9.4	21.8	27.9	24.5	26.1	36.0
川口総合文化センターリリア（女）		18.9	13.6	23.7	33.9	32.9	48.5	55.9
科学館（男）	8.6	3.9	9.4	12.0	9.6	12.2	1.7	2.3
科学館（女）		8.2	13.6	15.1	6.7	9.6	6.6	2.5
旧田中家住宅（男）	6.0	1.3	0.0	3.0	2.2	10.2	5.9	16.3
旧田中家住宅（女）		4.1	2.6	6.8	7.8	4.1	8.4	9.3
アートギャラリー・アトリア（男）	3.5	0.0	1.9	2.3	3.7	2.0	0.0	1.2
アートギャラリー・アトリア（女）		0.8	4.7	6.4	4.4	5.5	3.6	3.4

表5【好きな場所、もの、行事（勤務地別）】

単位：％

	全体	川口市内	埼玉県内	東京都内	埼玉県、東京都以外の県
中央図書館	29.8	25.0	28.2	38.7	36.1
川口総合文化センターリリア	28.0	22.6	22.6	21.0	33.3
科学館	8.6	10.7	9.6	8.6	16.7
旧田中家住宅	6.0	7.7	3.4	3.5	5.6
アートギャラリー・アトリア	3.5	4.2	3.4	3.0	5.6

表6【好きな場所、もの、行事（地域別）】

単位：％

	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
中央図書館	29.8	52.2	55.2	35.0	42.9	22.2	13.6	18.6	11.3	16.9	19.8
川口総合文化センターリリア	28.0	31.9	37.2	27.8	33.3	33.3	25.9	25.9	21.7	24.3	19.3
科学館	8.6	7.2	7.6	10.9	9.5	2.0	6.1	9.1	5.7	9.0	14.0
旧田中家住宅	6.0	4.3	5.4	6.4	9.0	8.1	5.4	5.0	4.7	2.6	7.7
アートギャラリー・アトリア	3.5	5.8	6.3	3.8	3.2	1.0	2.7	3.2	1.9	2.1	1.9

「川口市の状況や取り組みについての実感」から

調査結果によると「状況や取り組みについての実感」の設問において「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」と「感じている」は全体の34.6%、一方、「感じていない」は19.7%の方が回答しています。全体では23項目の状況や取り組みの中で8番目の高評価を示しています。（グラフ4）

詳細を見ると、「感じている」の回答の中でも、男女・年齢別では、男性の18

～29歳の方が44.7%、女性の18～29歳の方が40.2%、75歳以上の方が40.7%と高数値を示しています。一方で、男性の60～64歳の方が24.5%、75歳以上の方が20.9%と低数値を示しています。男女とも18歳～29歳の方が高いのに対し、75歳以上における男女の感じ方は大きく異なります。これは利用している施設や生涯学習の機会など、環境が全く異なるものと推測されます。（表7）

次に、地域別にみると、青木地域41.0%、戸塚地域39.7%と高数値を示しています。一方で、芝地域29.5%、鳩ヶ谷地域28.5%と低数値を示しています。（表8）

グラフ4

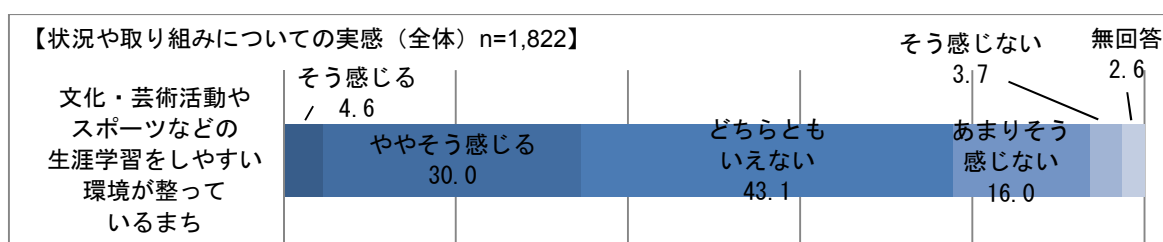


表7【状況や取り組みについての実感「そう感じる」「ややそう感じる」と回答した割合（男女・年齢別）】 単位 %

	全体	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（男）	34.6	44.7	30.2	35.3	33.8	24.5	30.3	20.9
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（女）		40.2	35.6	38.4	33.3	31.5	34.1	40.7

表8【状況や取り組みについての実感「そう感じる」「ややそう感じる」と回答した割合（地域別）】 単位：%

	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち	34.6	29.7	37.7	41.0	35.4	33.3	31.3	29.5	39.6	39.7	28.5

「今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの」から（23項目のうち上位5項目を選択）

調査結果によると「今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの」の設問において「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」は全体では23項目中11番目で、16.2%の方が回答しています。（グラフ5）

詳細を見ると、男女・年齢別では、男性の18～29歳の方が31.6%、40～49歳の方が21.8%と高数値を示しています。一方、男性の75歳以上の方が9.3%、女性の50～59歳の方が11.1%、60～64歳の方が11.0%と低数値を示していま

第2章 現状と課題

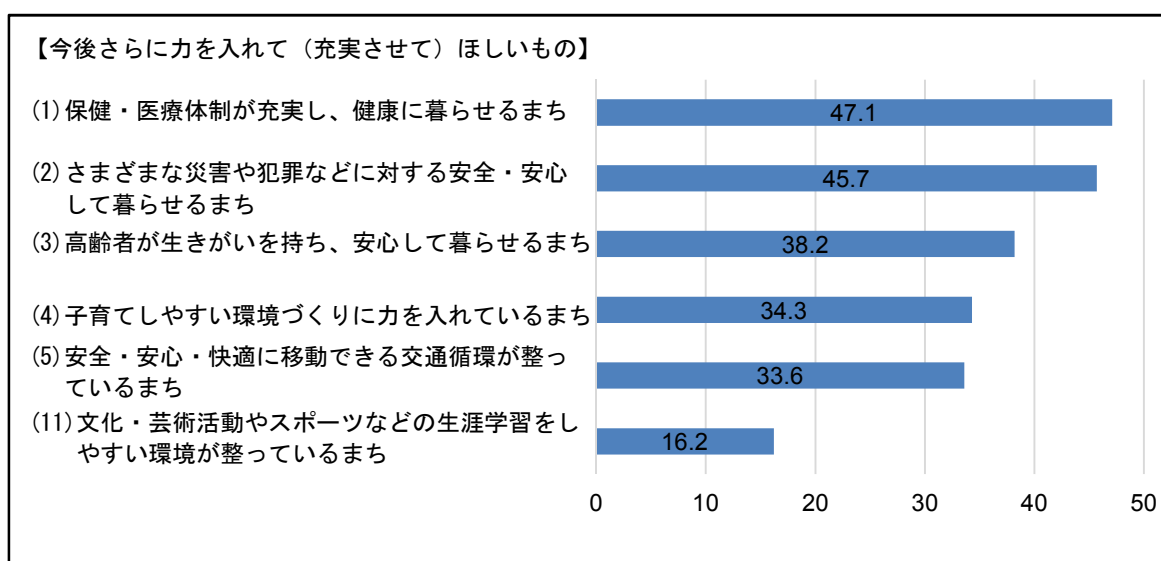
す。(表9)

次に、地域別にみると、中央地域22.5%、戸塚地域24.3%と高数値を示しています。一方、芝地域は「環境が整っている」と予測されるため9.5%と低数値を示しています。(表10)

このことから、「保健・医療や安全・安心など生命の危機に関する取り組みの更なる充実を求めている方」が多い一方で、若い世代の方は「文化・芸術活動やスポーツなどのしやすい環境の更なる充実」を求めている傾向も見受けられます。

グラフ5

単位：%



※ () 内数値は%の高い順の順位を示しています

表9【今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの（男性・年齢別）】

単位：%

	全体	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~74歳	75歳以上
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（男）	16.2	31.6	14.2	21.8	17.6	18.4	15.1	9.3
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（女）		13.1	19.9	17.4	11.1	11.0	15.6	12.7

表10【今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの（地域別）】

単位：%

表10	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち	16.2	22.5	16.1	17.3	14.8	16.2	13.6	9.5	16.0	24.3	14.0

(2) 分析結果から見えてきた課題

文化芸術の場の創設や提供

川口市の良いところとしては、文化芸術やスポーツの場の豊富さとしてよりも、日常生活の利便性を支持している方が多く見受けられます。また、良くないところについては、川口市外で勤務している方は、市内で文化芸術やスポーツをする場が乏しいと感じている方が多く見受けられます。全体的には、文化活動の場が豊富であると感じている方より乏しいと感じている方が多く見受けられることから、もっと気軽に参加しやすい環境づくりとして、文化芸術活動や文化芸術鑑賞が行える機会及び場所等の創設や提供が求められています。

文化芸術環境の更なる充実や整備

川口市の状況や取り組みについての実感として「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」と「感じている」方が3割半ばを示し、23項目中8番目と高い実感を得ています。

また、今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいものとして、「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」を1割半ば強の方があげています。この傾向は、男女共に若い世代に強く、地域別では、戸塚地域の方が特に強い傾向が見受けられます。更なる文化芸術活動などの生涯学習をしやすい環境の整備が求められています。

文化芸術・生涯学習施設の充実

川口市の好きな場所、もの、行事について、川口総合文化センター・リリアは好きな場所として3割弱の方があげており、文化芸術振興の一翼を担っていると考えられます。

一方、アートギャラリー・アトリアを好きな場所としてあげている方は1割にも届いておりません。これは、その他の生涯学習・社会教育施設にも同じ傾向が見受けられます。アートの発展拠点としてのアートギャラリー・アトリアを含め、文化芸術・生涯学習施設の充実が求められています。

その他の自由記述から

文化芸術に関わるイベント・行事等は市中心地に偏っているなど、市内各地域に格差があり、交通アクセスによっては参加が困難であるとの意見があります。その要因として、文化芸術施設が川口駅周辺に集中していることを指摘する意見があります。一方、市外に通勤する方の中には、退職後、居住地域のスポーツや文化活動に参加し、地域に根ざした生活を望んでいる方もいます。

全体に、文化芸術の推進は、うるおいある魅力的なまちづくりに寄与するものであることを示しています。

3 文化事業参加者・利用者アンケートから見た現状と課題

前述の「市民意識調査」は、市政全般について調査するものであり、その中で市政における文化芸術行政について現状把握するために分析したものです。このアンケートは、市民の方々が文化芸術に対してどのように考えているか、どの程度必要性を感じているのか等調査するため、平成28年から平成29年にかけて、市民コンサートや市文化祭など文化芸術活動に参加した方々を対象に調査を行ったもので、調査数2,260、有効回答数621、有効回答率27.5%となっています。

(1) 現状

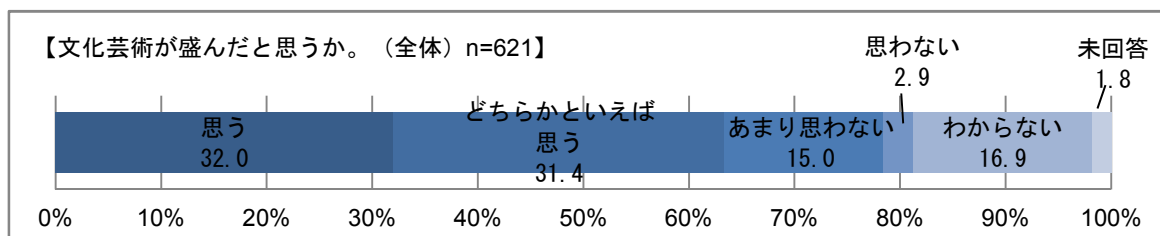
① 「川口市を文化芸術が“盛んなまち”だと思うか」から（5者選択）

調査結果によると、川口市は文化芸術が盛んだと「思う」または「どちらかといえば思う」と感じている方は63.4%と高い数値を示しています。（グラフ1）

全体では、6割以上の方が「盛んだ」と感じている反面、市内の21.3%の方が文化芸術が盛んだと「あまり思わない」または「思わない」と感じており、高い数値を示しています。（グラフ2）

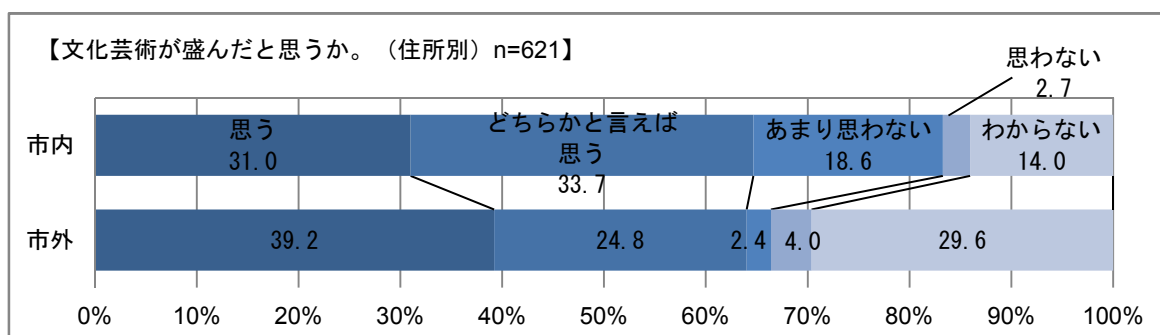
グラフ1

単位：%



グラフ2

単位：%



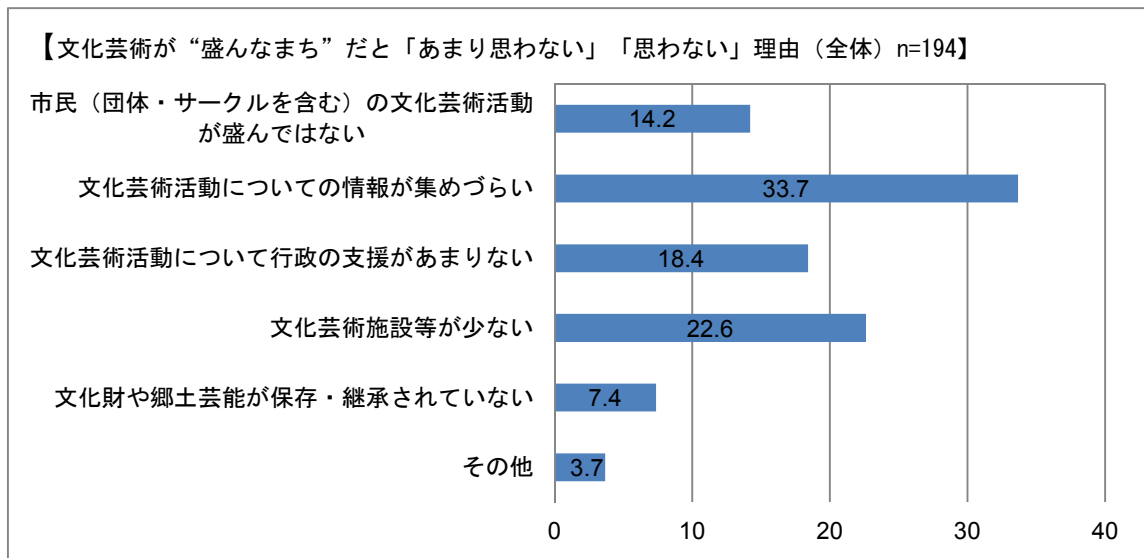
①-2 (複数回答可)

上記で「あまり思わない」または「思わない」と答えた方に対して、なぜそう思うのか聞いたところ、33.7%が「文化芸術活動についての情報が集めづらい」、22.6%が「文化芸術施設が少ない」、18.4%が「文化芸術について行政の支援があまりない」と続いています。(グラフ3)

詳細をみると、男性の年齢別では、20～50歳代の方はほかの年齢に比べ、「情報が集めづらい」と感じていることが見受けられます。対して、女性は、盛んだと思わない理由が年代によって様々であると感じていることがわかります。(グラフ4、5)

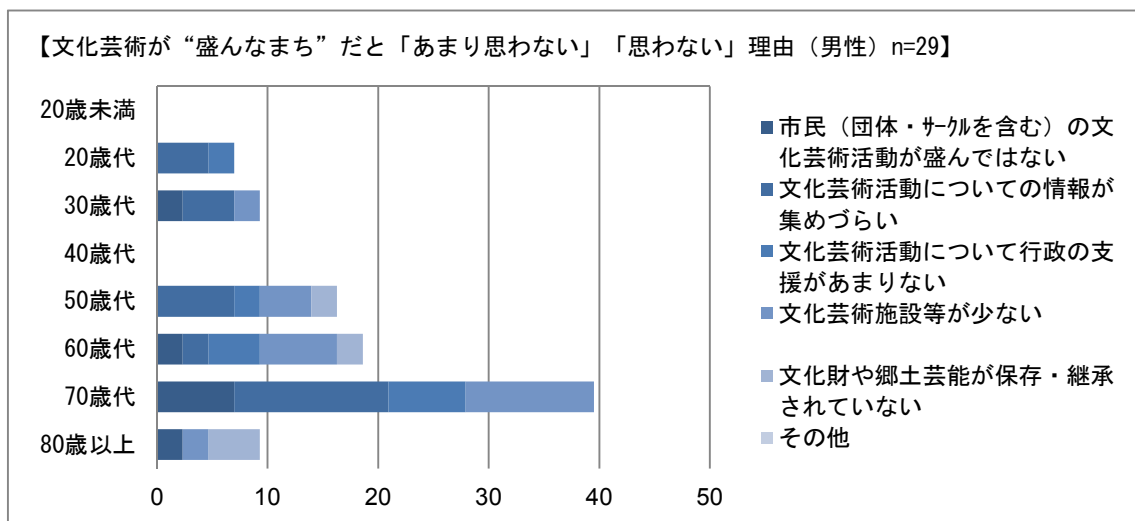
グラフ3

単位：%



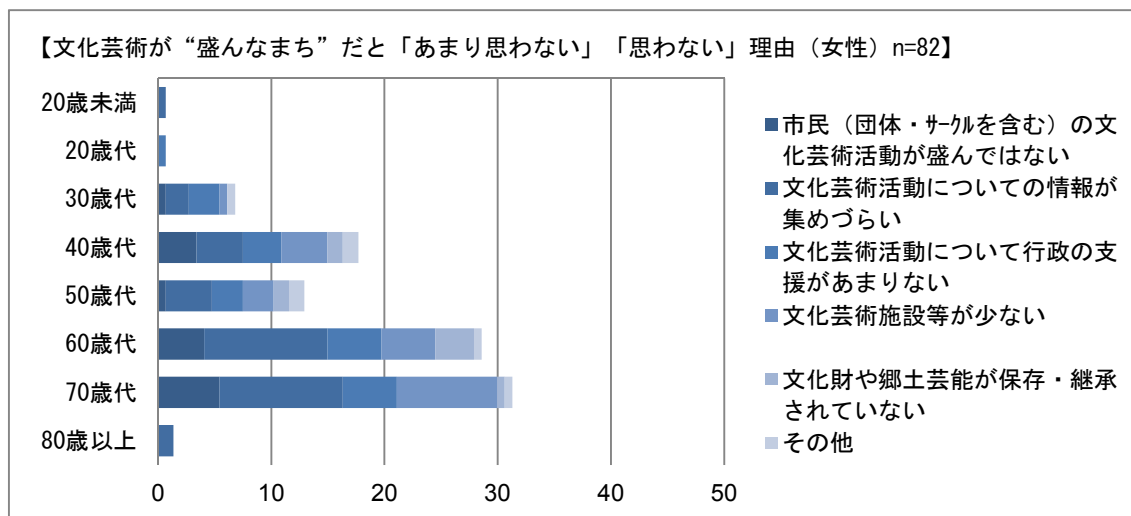
グラフ4

単位：%



グラフ5

単位：%



② 「この1年間に市内の文化芸術活動に参加したか。」から（2者選択）

調査結果によると「参加した」方は58.8%で「参加していない」方の38.6%より上回っています。（グラフ6）

詳細をみると男女別では、女性の63.7%が参加しているのに対し、男性は49.7%と参加率に開きがあります。男性の20、30、50歳代をしてみるとほかの年代に比べ、参加率が著しく低いことが見受けられます。（表1）

②-2（複数回答可）

「参加していない」理由を見てみると「時間に余裕がない」「文化芸術活動の情報がない」などに高い数値が示されています。年齢別では、20～50歳代の働き盛りの年代では、時間がなかったり文化芸術活動の情報を集められていないことが推測されます。対して、定年を過ぎた60～70歳代では、参加率が上がっている傾向が見受けられます。仕事をやめ、時間に余裕ができてから趣味の時間として文化芸術活動を始める人がいるとも推測されます。また、どの年代においても「文化芸術活動の情報がない」と感じている人が多いことが見受けられます。（グラフ7、8）

グラフ6

単位：%

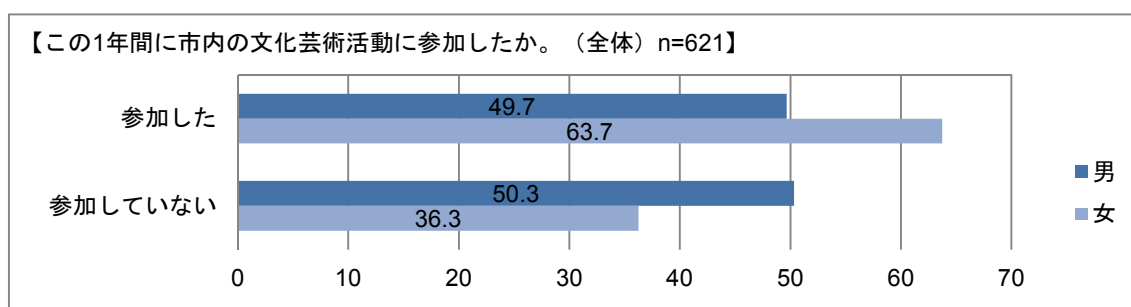


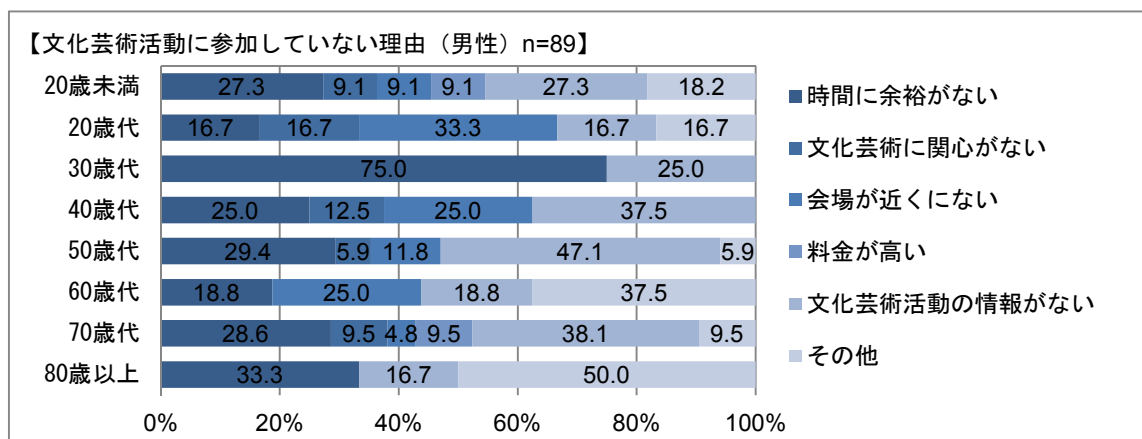
表1【この1年間に市内の文化芸術活動に参加したか。(性別・年代)】

単位：%

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
参加した(男)	40.0	28.6	0.0	36.4	27.8	51.4	62.0	50.0
参加した(女)	60.0	57.1	45.9	48.4	46.4	59.8	76.5	67.4

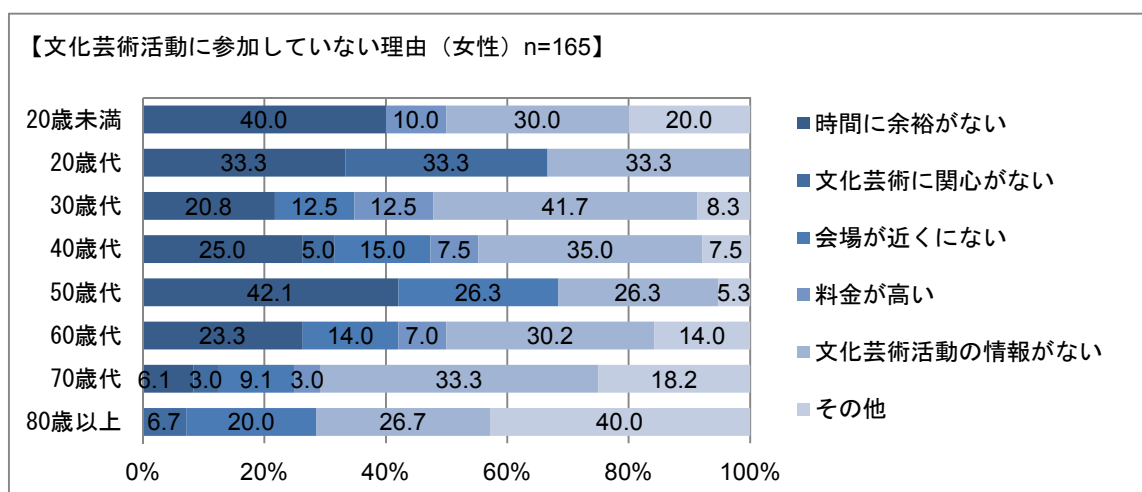
グラフ7

単位：%



グラフ8

単位：%



③ 「今までに市内の文化施設を利用したことがあるか。」から（複数回答可）

調査結果によると、市内の文化施設として、71.3%の方が「川口総合文化センター・リリア」、57.0%の方が「公民館」を利用しており、「川口総合文化センター・リリア」は駅前の立地でアクセスが良く、「公民館」は自宅の近くなど通いやすいため利用している人が多いと考えられます。しかし、「川口総合文化センター・リリア」では予約がとりづらい、「公民館」はバリアフリー化が進んでいないという意見もみられます。

一方、アートギャラリー・アトリアは17.4%と利用したことがある方は他に比べ低い数値です。（グラフ9）

③-2（複数選択可）

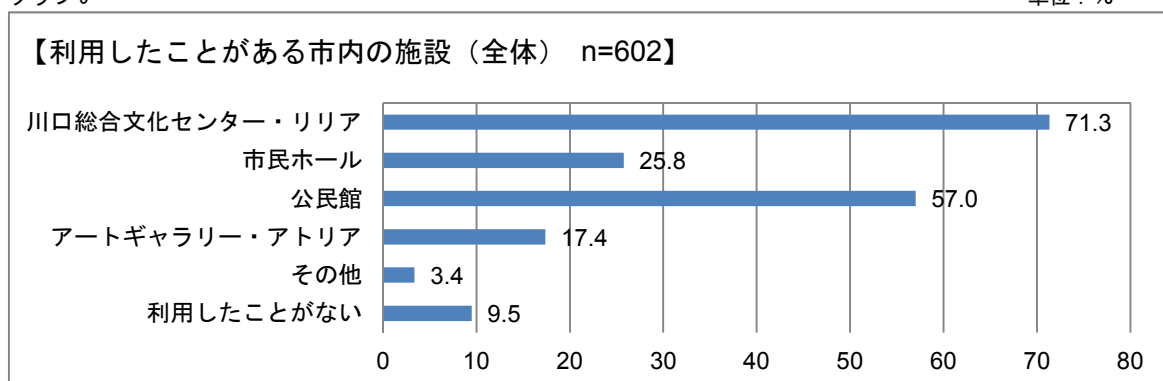
施設の利用満足度は77.5%が「どちらかと言えば満足」または「満足」と回答しており高い数値を得ています。満足度については、性別別、住所別ともに大きい差はありませんでした。（グラフ10）

③-3（複数回答可）

市内施設を利用した方で、「やや不満」または「不満」と回答した13.6%の方に対し、何を必要としているかを調査したところ、市内の方は、「既存の施設・設備の改修」を望んでいる方が男女ともに多い傾向があり、市外の方は「利用料を安くする」ことを一番望んでいるという違いが見受けられました。（グラフ11）

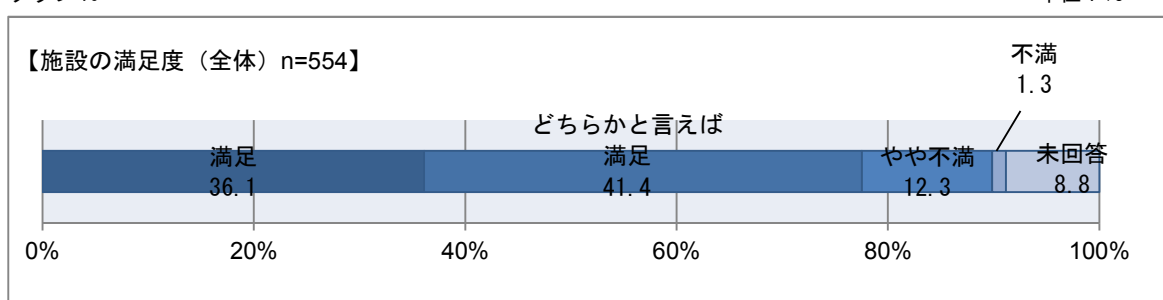
グラフ9

単位：%



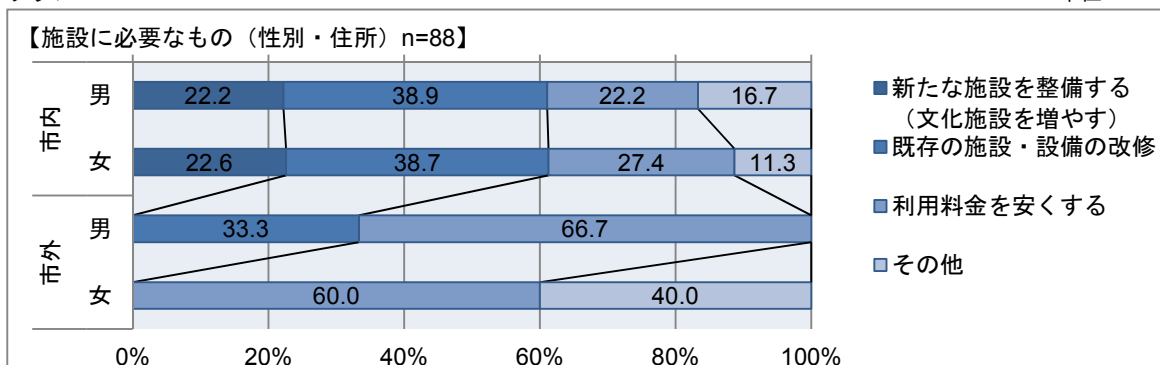
グラフ10

単位：%



グラフ 11

単位：%



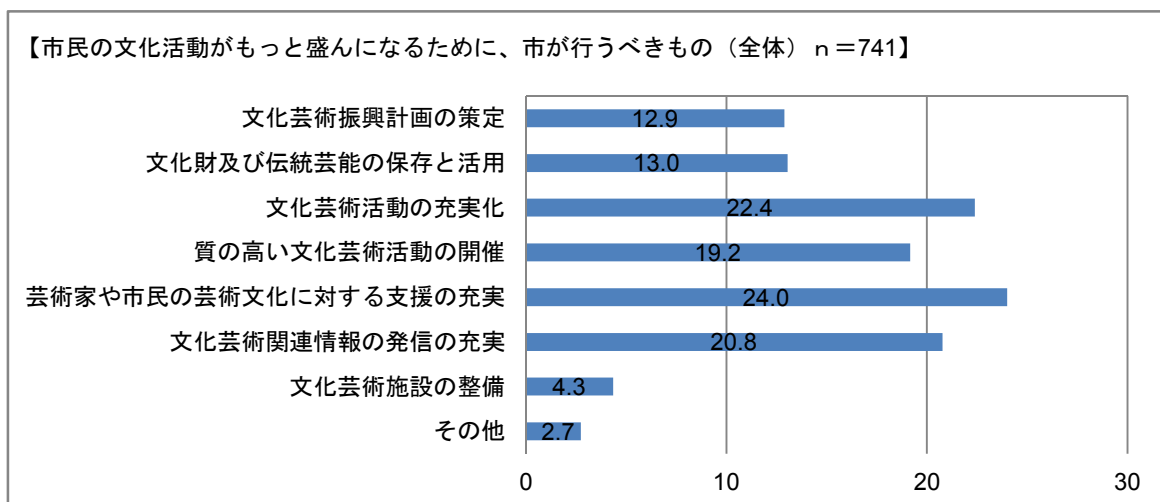
④「市内の文化活動がもっと盛んになるために、市が行うものとして必要なもの。」から（複数選択可）

調査結果によると、「芸術家や市民の芸術文化に対する支援の充実」が24.0%、「文化芸術活動の充実化」が22.4%、「文化芸術関連情報の発信の充実」が20.8%と続いています。（グラフ 12）

全体では、男性の回答率は82.6%、女性の回答率は73.1%であり、女性に比べ男性の方が、行政が行うものの必要性を高く感じており、また、男女ともに60～70歳代で「文化芸術活動の充実化」「芸術家や市民の芸術文化に対する支援の充実」が高い割合を示しています。住所別については、市内外に大きな違いはありませんでした。（グラフ 13、14）

グラフ 12

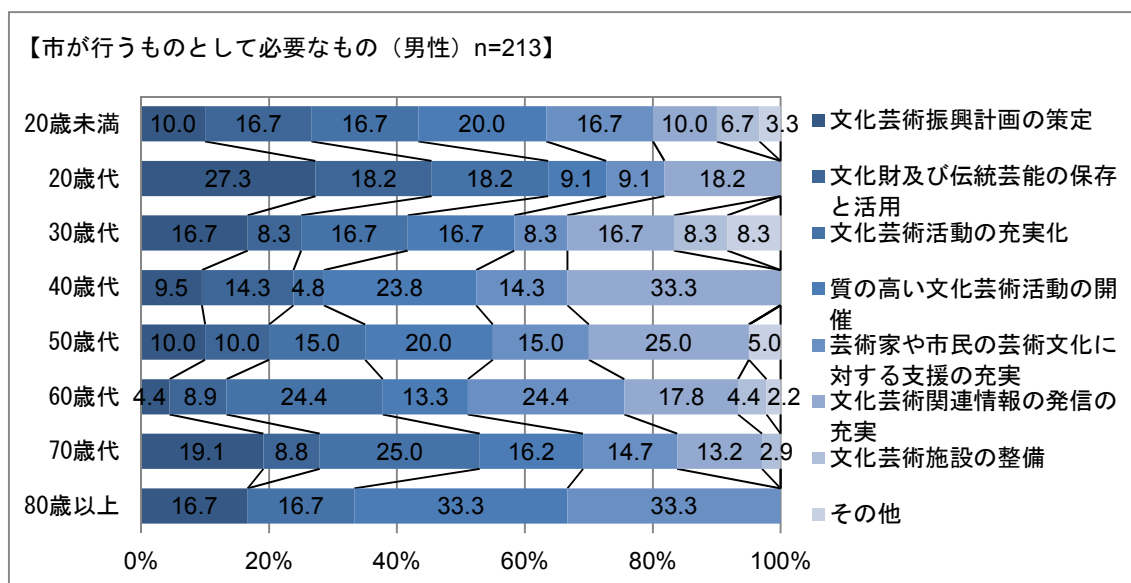
単位：%



第2章 現状と課題

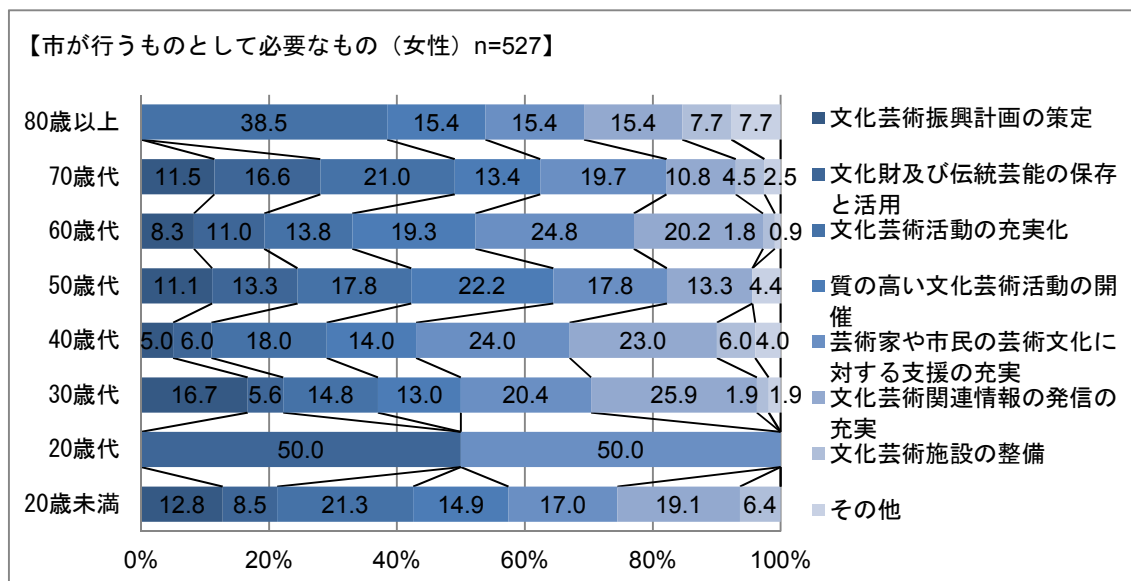
グラフ13

単位：%



グラフ14

単位：%



次に、質問同士をクロスした分析を行い、⑤、⑥に示します。

⑤【川口市を文化芸術が“盛んなまち”と思うか】及び【この1年間に文化芸術活動に参加したか】またその理由

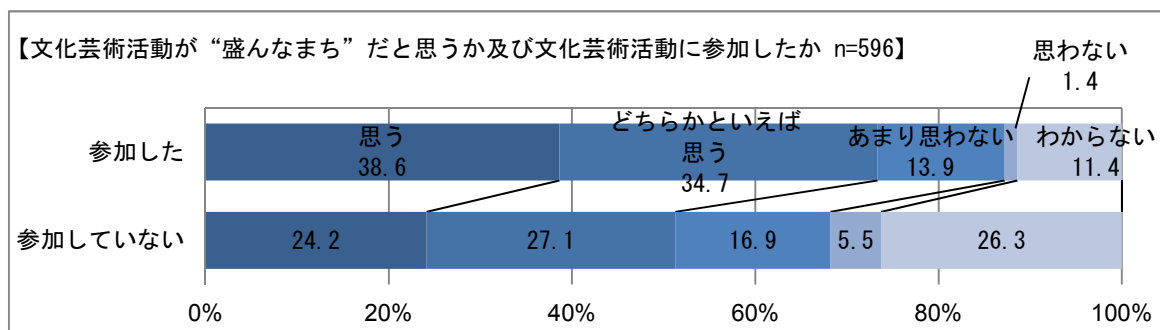
調査結果によると、川口市が文化芸術が“盛んなまち”と「思う」及び「どちらかといえば思う」を選択した人は、文化芸術活動に「参加していない」人に比べ「参加した」人の方が22.0ポイント高い数値になっています。

また、文化芸術活動が“盛んなまち”か「わからない」と答えた人は、文化芸術活動に「参加した」人より「参加していない」人の方が14.9ポイント高い数値になっており、文化芸術活動に「参加していない」という事実が“盛んなまち”か判断できにくいという経緯が示されています。(グラフ15)

文化芸術活動に「参加していない」人のうちその理由に「時間に余裕がない」と回答した人の63.0%が、文化芸術活動が“盛んなまち”だと「思う」及び「どちらかといえば思う」を選択しています。つまり、文化芸術活動は“盛んなまち”と思うが、時間に余裕がないため「参加していない」人が多いことがわかります。(グラフ16)

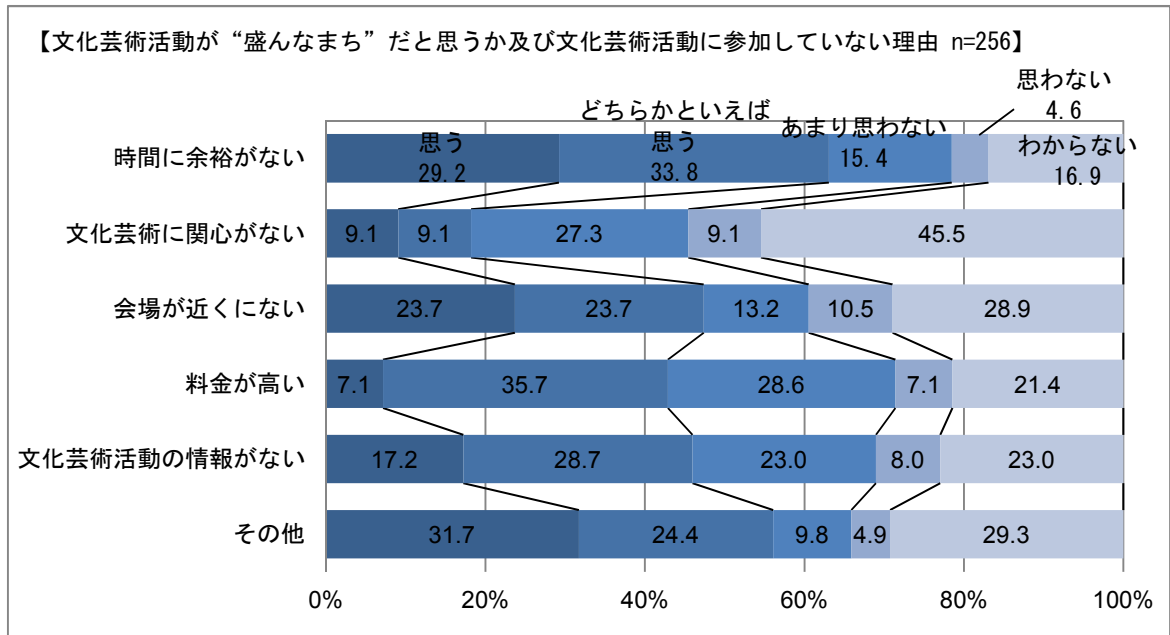
グラフ15

単位：%



グラフ 16

単位：%



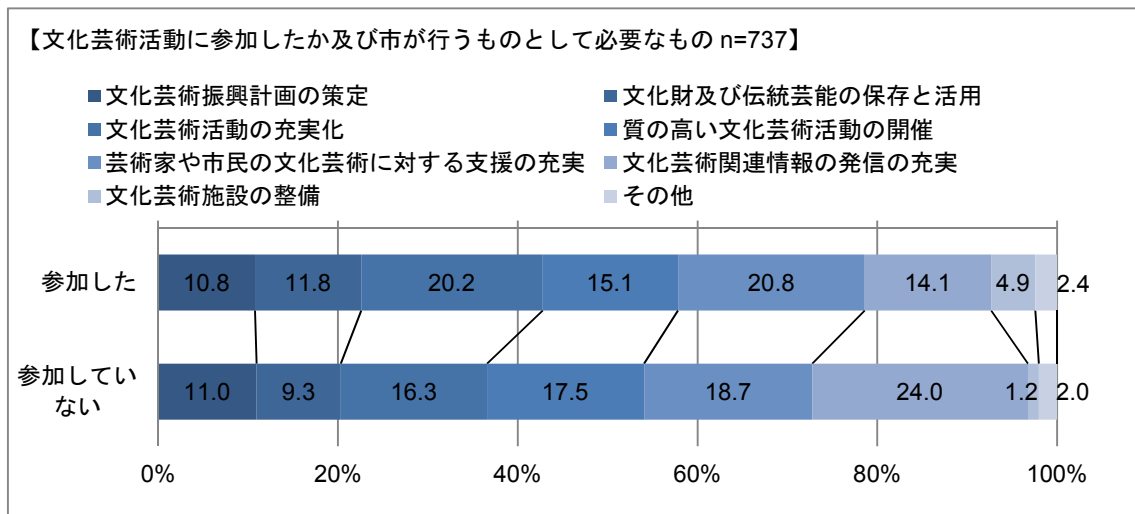
⑥ 【この1年間に文化芸術活動に参加したか】及び【市が行うものとして必要なもの】

調査結果によると、文化芸術活動に「参加していない人」が「必要としているもの」は、「文化芸術関連情報の発信の充実」24.0%と一番高く、「参加した」人の割合と比べても、9.9ポイントの差があり、文化芸術関連の情報を必要としていることがわかります。

対して、「参加した」人が必要としているものは「芸術家や市民の文化芸術に対する支援の充実」20.8%、「文化芸術活動の充実化」20.2%と続き、支援の充実や活動の充実であるとわかります。(グラフ 17)

グラフ 17

単位：%



(2) 課題

文化芸術活動の情報発信の必要性

今回のアンケートでは各質問項目で「文化芸術活動の情報」について不満を感じている方が見られました。①-2では文化芸術が盛んでないと感じている方のうち、33.7%の方が「文化芸術活動の情報が集めづらい」と感じており、②では1年間に市内の文化芸術活動に参加していない方のうち、40.5%の方が「文化芸術活動の情報がない」と回答しています。また、自由意見でも、情報発信を必要とする意見が見られました。よってこれらから満足できていない理由は、情報を得る手段が少ないことと予想され、情報を得る手段を増やすことが求められています。

現在、行政の主な広報手段として「広報かわぐち」や「市ホームページ」、ポスター、チラシなどが挙げられます。現状は、20～50歳代の仕事に追われ忙しい働き盛りの世代は、ゆっくり確認する時間がないと想定されます。情報を得る手段や、情報がないと考える人たちを減らし、情報発信の充実につなげることが求められています。

既存施設の見直し

本市の特徴として、駅前でアクセスの良い「川口総合文化センター・リリア」、各地域に多く配置されている「公民館」、商業施設のすぐ隣にあり、家族連れが多く訪れる「アートギャラリー・アトリア」など文化芸術の拠点となる施設が多くあります。「文化芸術が“盛んなまち”だと思う」数値が高い理由は、この施設が多数ある点や設置に対する満足度が高いことが考えられます。

その一方で、自由意見を見てみると既存施設の改修を求めている方が多いことがわかります。その他にも、施設の使用方法の見直しや使用料の見直しを求める意見もありました。

文化芸術活動の充実化

上述のとおり文化芸術活動の情報を充実させていく必要がある一方で、すでに文化芸術活動に参加している方は、十分に情報を得ている方もいます。その方たちは、情報の充実ではなく文化芸術活動に対する支援や文化芸術活動の充実を求めています。積極的に文化芸術活動の場を提供することや様々なジャンルの文化芸術イベントを提供するなど、行政側から働きかけ、多くの機会を提供していくことを求められています。

また、時間に余裕がなく平日などに文化芸術活動に参加できない方のために休日に行う文化芸術活動や、反対に、平日の夜間開催のイベントなど、様々なライフスタイルにあう、誰もが参加しやすい機会を増やしていかなければなり

ません。

その他自由意見から

その他意見では、施設の改修を求める声が多く挙がったほか、発表の場を求める意見もありました。現在、本市では、長く市民に親しまれていた川口市民会館が閉館し、川口駅付近での発表の場が川口総合文化センター・リリアのみとなっています。川口総合文化センター・リリアは市外の団体も多く利用されるため、予約が高倍率となっており、市内の方々が活動や発表に使いづらい状態です。市民が活動しやすい環境づくりが求められています。

4 計画策定における課題

ここでは、これまでの「総合計画のための市民意識調査」、「文化事業参加者・利用者アンケート」から、抽出された課題の中から頻出が高く、解決すべきものを示します。

(1) 「情報」

「文化芸術活動に関わる情報が少ない」、「情報を集める手段がわかりづらい」などの声が多くあり、若年齢層、中年年齢層、高年齢層それぞれに適した情報収集手段や情報発信手段について検討が必要です。

(2) 「機会の提供」

「参加できるイベントが少ない」、「成果を発表する機会が欲しい」などの要望が多くあり、市民の誰もが等しく参加しやすいイベントの創出が必要です。

(3) 「保存と継承」

伝統文化の継承や本市の文化芸術を支えてきた文化芸術団体の高齢化を危惧される声があり、それぞれの団体が他の団体や企業などと連携することで更なる発展が見込まれ、新しい魅力につながると考えます。

(4) 「支援・補助」

「文化芸術活動する団体や芸術家、芸術への支援が足りない」との声に基づき、行政・企業等の支援や補助などの検討が必要です。

(5) 「興味・関心」

幼少期の体験が豊かな情緒を育てることから、文化芸術活動への興味や関心を幼い頃から、身近に感じられる土壌を作る必要があります。

(6) 「場所」

現在ある施設のあり方の見直しや新設を望む声、設備等への意見が多くあり、施設のあり方をまずは検討する必要があります。

これらの課題に取り組むため、次の章において指針を定め各施策を推進していきます。

第2章 現状と課題